

博物館だより

No.15

平成 19 年 7 月 1 日
 みやこ町歴史民俗博物館発行
 福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
 TEL 0930-33-4666
 FAX 0930-33-4667

第12回 小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会
 みやこ町教育委員会 主催

楽しみがいっぱいの夏休み。小学生のみなさんは何をして遊ぶますか？水泳・キャンプに旅行やスポーツなどなど…考えるとワクワクしますね。

でも、せっかくの長い夏休み、遊んでばかりじゃもったいないですよ。自分たちの住んでいる町や地域の歴史を調べたり、おじいちゃん、おばあちゃんから昔の話を聞いたりして、夏休みだからこそできる「歴史たんけん」にチャレンジしてみませんか？

みなさんが調べた歴史のことを作文にまとめて下さい。

◎小学5・6年生なら誰でも応募できます。

◎自分たちの住む町や地域の歴史、おじいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など「歴史」に関することなら内容はなんでもOK!

◎作文は400字詰め原稿用紙3枚から5枚程度にまとめて下さい。



応募作品の送付方法

左記の送り先へ個人または学校単位で作品を郵送してください。

作品には必ず住所・氏名・電話番号・学校名・学年をはっきりと書いてください。

送り先

T824-0121

京都郡みやこ町豊津1122-13

みやこ町歴史民俗博物館内

友の会事務局

しめきり日

平成19年9月7日

(当日消印有効)

結果発表

平成19年10月下旬。優秀賞には賞状・賞品(図書カード)を贈呈します。また応募者全員に記念品をさしあげます。

ご利益のほどはいかに？

5月26日と6月2日に当館主催「みやこのご利益ツアー」と題した町内史跡めぐりが行われました。今回は町内で昔から「○○に効く」として知られる信仰対象をめくり、「ありがたーいご利益とは何か」を探ろうという企画です。ツアー①では蔵持山の如意宝珠石を、ツアー②ではお抱え地藏や仙助さん等を見学しました。



ご利益ツアー①
 蔵持山(犀川上高屋)の如意宝珠石の前にて

7月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

7月5日(木) 9:30

【古典かな講座】

7月12日(木) 9:30

【古文書講座】

7月14日(土) 10:00

【初級古文書講座】

7月27日(金) 10:00

【みやこ学講座】

7月15日(日) 9:00

《古文書解読コーナー》

① 原書

② 「トント」寄道」と同じ

③ 腹

④ 「トント」しつかり。と十分に。

⑤ 麦糖

⑥ 「トント」支配の範囲。○○外。

⑦ 酒

⑧ 「トント」飲みすぎると大変

⑨ 馬

⑩ 「トント」CONAN

◎ 答え

(反対向きに見てください)

- ① ① 原書
- ② ② 「トント」寄道」と同じ
- ③ ③ 腹
- ④ ④ 「トント」しつかり。と十分に。
- ⑤ ⑤ 麦糖
- ⑥ ⑥ 「トント」支配の範囲。○○外。
- ⑦ ⑦ 酒
- ⑧ ⑧ 「トント」飲みすぎると大変
- ⑨ ⑨ 馬
- ⑩ ⑩ 「トント」CONAN

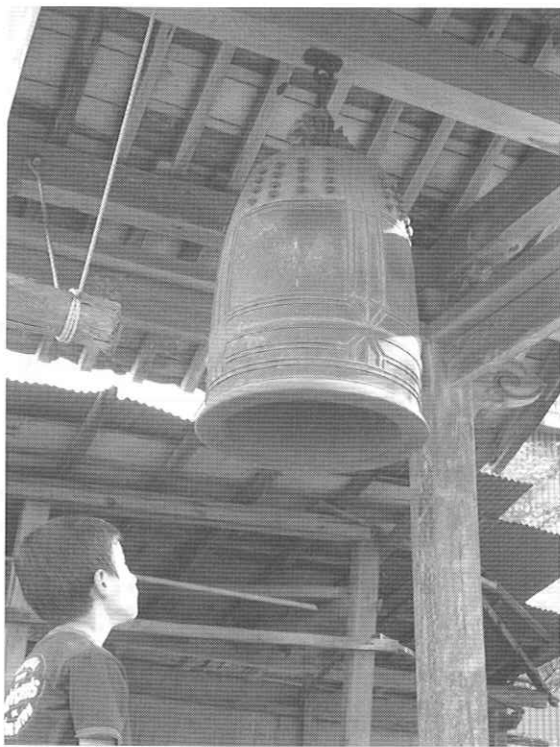
知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラ...
みやこの歴史発見見④

神社と梵鐘

神社の梵鐘

梵鐘は仏具の一つで、お寺で行なわれる様々な行事の合図や、朝夕の定時を伝える時の鐘として用いられます。また、その音を聴くことで、愚かな考えや悪い行いを戒め、地獄から逃れ極楽往生できるとされています。

ところで、梵鐘はお寺にあるもの、というのが現代の「常識」ですが、実はこれ、明治時代以降の「常識」で、江戸時代までは、神社に梵鐘があるのも決して珍しいことではありませんでした。神仏習合、または神仏混淆といって、日本固有の神の信仰と、遠



▲宇佐市法音寺の梵鐘
もとは大原八幡神社(みやこ町勝山大久保)の鐘だった。

くインドから伝わった仏教とを融合・調和させることは、日本人が古くから行なってきた信仰のスタイルでした。どの神社にも梵鐘があった訳ではありませんが、神社の境内から鐘の音が響いても、特に驚くようなことではなかったのです。

生立八幡宮の梵鐘

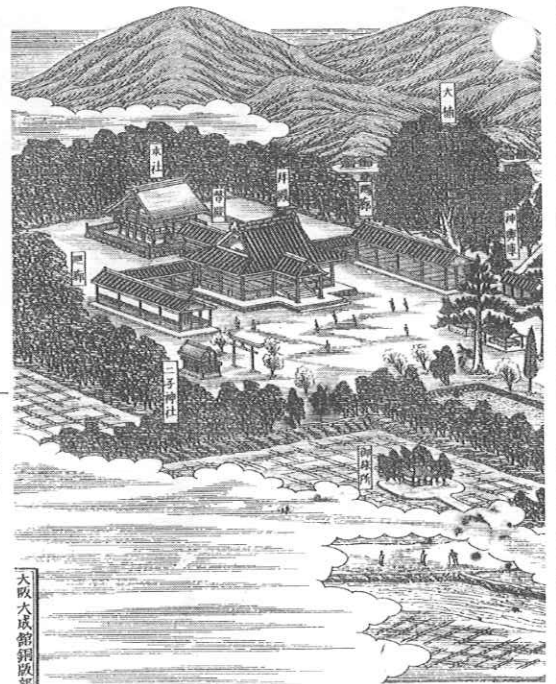
江戸時代、生立八幡宮(みやこ町犀川生立)には梵鐘があり、境内の鐘撞堂に下げられていました。残念ながら現存していませんが、この梵鐘は、寛文一二年(一六七二)に氏子中が寄進したもので、安部次右衛門という小倉

の鋳物師によって製作されたものでした(『太宰管内志』)。鐘撞堂が、境内のどの場所にあったのか不明ですが、その建家は、老朽化のため文政一〇年(一八二七)に一度解体されています。計画では、その古材を利用してすぐに建て直す予定でしたが様々な理由から延び延びとなり、天保二年(一八三一)になってようやく着工、同年九月六日に完成しています(長井手永大庄屋 天保二年日記)。この梵鐘と鐘撞堂が、いつ

失われたのか分かりませんが、遅くとも明治時代の初めには、後述べる「神仏分離」の政策により、境内から姿を消したものと思われるます。

大原八幡神社の梵鐘

大分県宇佐市上元重にある浄土真宗法音寺の梵鐘は、その銘文から、元々はみやこ町勝山大久保(上久保区)にある大原八幡神社の梵鐘だったようです。この梵鐘は、永享九年(一四三七)に「頼安」という鋳物師によって製作されたもので、当時大原八幡神社に属していた「宗鎮」という僧侶が発起人となり、その他幾人かが施主となって奉納されたものでした。頼安という鋳物師は、現行橋市金屋近辺を本拠地として中世に活躍した「今井鋳物師」と通称される職人の一人と考えられています。なぜ、いつ頃、大原八幡神社



▲明治30年頃の生立八幡宮(福岡県名所図録図絵)より
鐘撞堂はすでに無い。

の梵鐘が法音寺に移ったのか不明ですが、何にせよ、失われることなく現存していること以上に幸いなることはありません。この梵鐘は現在、宇佐市指定文化財として大切に保護されています。

なお、今井鋳物師・頼安の作品としては、蔵持山神社(みやこ町上高屋)が所蔵する宝徳元年(一四四九)作の銅製鰐口(福岡県指定文化財)があります。また、現存はしませんが、行橋市元永の大祖大神社(旧名妙見宮)にあった永享八年(一八三六)作の梵鐘も頼安の作品でした(『太宰管内志』)

梵鐘受難

幕末の文久三年(一八六三)、小倉藩は外国船の襲来に備えて関門海峡沿岸に大砲を据え付けました。その際、領内の梵鐘を半ば

強制的に取り上げ、大砲の材料としましたが、この時、寺院の梵鐘と共に神社の梵鐘もかなりの数失われたものと考えられています。さらに、明治維新後、政府は「神仏分離」をめぐらした政策をとって、神道の国教化を進め、その一環として神社から仏具類を排除させました。また、これに呼応して全国で「廃仏毀釈」と呼ばれる仏教排斥運動が起こり、神社にあった仏像・仏具が破壊されたり、捨てられたりしたのです。そして、この流れの中で、神社にあった梵鐘も、あるものは壊され、またあるものは売却されるなどしたのでした。梵鐘の「受難」は戦争などの有事のたびにありましたが、神社の梵鐘にはまた別の「受難」があったのです。

(川本英紀)